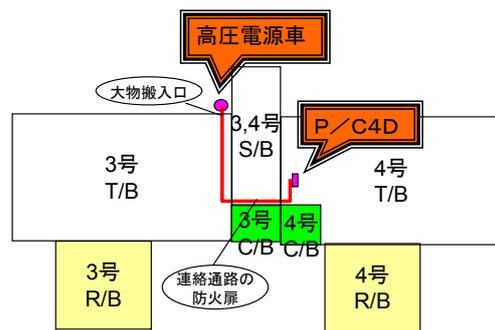
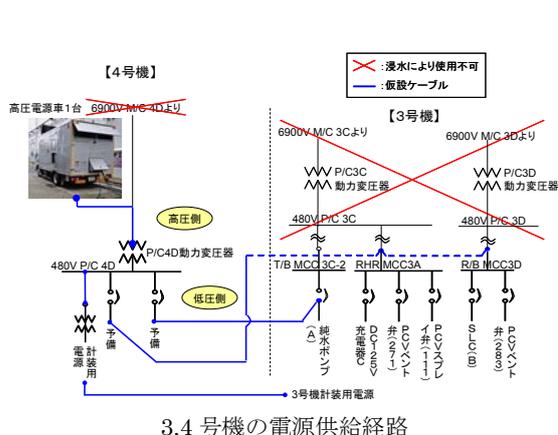


<電源復旧の準備>

- ・ 3号機は、原子炉への高圧注水が可能な SLC ポンプや、PCV ベント弁、直流電源設備の充電盤等を復旧することとした。
- ・ 高圧電源車の配置のため、12日午後、バックホーで津波による障害物を撤去して道路を整備。
- ・ ケーブル敷設経路の確保のため、12日 22:30、復旧班1名と協力企業2名は現場に向かった。まず構内の技能訓練施設に向かい、ガスボンベを確保。車両に載せて3号機タービン建屋まで運搬し、大物搬入口の閉まっているシャッターを溶断。引き続き建屋内に入り、3、4号機のコントロール建屋連絡通路の変形した防火扉を溶断。火気作業であったため、地震及び津波の影響で周辺に散乱する可燃物を片付け、消火器を準備するなど、慎重に作業を進め、13日 3:00頃、ケーブル敷設ルートを確認した。
- ・ 13日未明、3,4号機の電源復旧のために予め準備していた高圧側の電源ケーブルは、1号機原子炉建屋の爆発の影響で損傷して使用不能なことを確認。13日 6:30頃、高圧側ケーブルを再度搬送するために、復旧班2名は協力企業とともに発電所構外企業事務所へ向かった。数時間かけて、高圧側ケーブル約 280m の切り出しを行うとともに、当該事務所でケーブルの端末処理を実施。
- ・ 同じく 13日 6:30頃、別の復旧班員と協力企業は、発電所構内協力企業倉庫へ向かい、低圧側ケーブルの切り出し及び端末処理を実施。
- ・ ケーブル敷設のために、約 20 名を確保して、ケーブルの担ぎ方や人の配置について免震重要棟で説明を実施。全面マスク等の装備やヨウ素剤の服用など準備を行い、13日 10:00頃、現場作業を開始した。



3, 4号機ケーブル敷設ルートの概要図

大物搬入口及び連絡通路の防火扉を溶断し、大物搬入口前に設置した高圧電源車から P/C4D まで高圧側ケーブルを敷設。